る.る.ぶ²

食べ**る**、寝**る**、遊**ぶ**、学**ぶ**

大殿小学校　校長室だより
平成30年度　第７号（5月31日）
校長　　磯　村　　勇

朝の風景

ほぼ毎朝、大龍門、県道（旧９号線）の歩道橋、少し南側に歩いて山口線の線路あたり等々、さまざまな場所に移動しながら、登校する子どもたちを迎えます。交通安全指導が、主な目的ですが、そのほかにもいろいろと気づくことがあるのです。

歩幅をあわせる

黄色のカバーをランドセルにつけた１年生が二人。仲良く手をつないで歩いてくる姿を時々見かめます。身長はほぼ同じですから、割とすたすたとリズム良く歩くことができます。

一方、１年生と手をつないで登校する高学年の児童もいます。歩きのリズムをそろえるのが大変そうです。子どもの手を引いて歩いたことがある方には、身に覚えがあると思いますが、歩幅やリズムを合わせて長時間歩くのは結構疲れるものです。本当に辛抱強く歩幅とリズムを１年生に合わせている高学年の児童に、感心して見ていました。学校に到着した高学年の児童からは、「やれやれ、今日も無事に着いた」というほっとした気持ちがうかがえます。

一人ひとり、歩幅も歩くリズムも違うものです。それは、歩くことだけでなく、生き方にもいえることかもしれません。１年生の歩幅とリズムに合わせて歩く高学年の子どもたちを見ながら、「子どもたちへの指導は一人ひとりに応じたものでありたいな、でも難しいな」と思います。

けれども、最近は１年生と手をつないで登校する高学年の児童を見かけることが、ほとんどなくなりました。入学からほぼ２ヶ月が経ち、１年生がすっかり慣れて余裕ができ、手をつないで登校する必要がなくなったからです。子どもたちは、確実に成長しています。（こういう頃が、低学年の児童の事故が起こりやすいとき。ご家庭での一声をお願いします）

あいさつ

山口県内の小学校の中に、登校時や下校時に「おはようございます」もしくは「こんにちは」の声を出すタイミングを検討し、「７ｍあいさつ」を呼びかけた学校があります。自分が伝えたい相手との距離が７ｍぐらいになったとき、「おはようございます」や「こんにちは」の声を出そうという運動です。

大殿小にも、この７ｍあいさつをごく自然にできる子どもが何人かいます。離れたところからのあいさつですから、周りにいる人にも聞こえます。その明るい声は、今日もがんばろう、いいことがあるかもしれないと、人々の気持ちまで明るくさせてくれる効果があります。こういうのが、ほかでもない「自分以外の誰かを幸せに」する行動なのです。ぜひ続けてほしいと思います。また、こういう子が増えてほしいと思います。

元気さを売りとした７ｍあいさつをする子だけではありません。１ｍ～２ｍに近づいたころに相手の顔を見て、ていねいなお辞儀を添える子もいます。７ｍあいさつほどの影響力はありませんが、実に好感がもてるあいさつです。

一方で、登校中のおしゃべりに夢中になってあいさつをすっかり忘れてしまう子もいますし、私の顔を見るなり、「おはようございます」をすっ飛ばして「最初はグー！ジャンケン・・・」と勝負を挑んでくるあわて者も時としています。

自分自身への自信と他人への信頼感が、あいさつを生み出す主なエネルギーです。毎朝、子どもたちに出会って、あいさつを聞いたときは心底ほっとします。それは、「この子たちには自分への自信と他人への信頼感があるな」と思うからです。